

# 武尊牧場～上州武尊山（雪山・テント泊）

齊藤整紀

- 平成 27 年 3 月 28 日～29 日
- メンバー 西明彦(CL)、西正子、白井、  
齊藤整、4 名【敬称：略】

## ●コースタイム

28 日 沼田駅 8：40⇒10：30 武尊牧場スキー場⇒リフト頂上 11：00⇒13：35 避難小屋⇒14：00 セビオス岳下テント場（泊）  
29 日 テント場 6：15⇒8：30 中ノ岳⇒9：10～20 武尊山（沖武尊）⇒11：00 テント場⇒12：40 ゴンドラ上⇒13：40 スキー場駐車場⇒14：20～15：20 望郷の湯⇒18：30 西武線・南大塚駅

## 【はじめに】

1 月の安達太良、3 月上旬の柵池で雪山を楽しんだが、山の上での展望に未練があり、こんどこそ！の思いで参加させて頂いた。武尊山は、主峰沖武尊の他、中ノ岳、前武尊、剣ヶ峰山などの 2000m 級のピークを擁し、八方に膨大な尾根を張っているため様々な登山コースがある。今回は武尊牧場スキー場からの比較的標高差が少なく、距離の長いコースである。

## 3 月 28 日（土）快晴

関越道の渋滞回避のため、白井さんと私は電車で行き、沼田駅で西ご夫妻の車に拾ってもらった。好天で、車窓の眺めは抜群である。桜はチラホラながら、浅間山や日光連山は見事で、谷川連峰の

南東の白い山塊が目指す武尊山である。

10 時過ぎに武尊牧場スキー場に着き、支度を整え、スキーリフトへ乗り込む。旧式のリフトであるが高度を稼げるのは有難い。リフト頂上からワカンをつけて歩き出す。冬山のテント泊は荷物が多いため当然であるが、食料系の 2 食分が肩に食い込む。当初、平坦なブナの樹林帯は踏跡もあり、固めの雪で歩き易いが、登りになると、週初めの新雪で足が取られる。ム・ム・ム・日頃の不摂生が堪える。

やがて踏跡も消えて、正子さんは随所に赤札を付けていく。雪庇が張り出している左側には迷い込まないように、地図や GPS の確認は怠らない。出発から 2 時間半が過ぎた地点で雪に埋まった避難小屋の一部を発見した。そこから更に 30 分程登った平地を幕营地と決めた。北側には、尾瀬の燧、至仏や上信越の峰々が白く輝く。正に息を呑む美しさである。

重いザックを下し、先ずテント設営にかかる。一仕事を終えた後、ビールで乾杯！風景を楽しみながらワイン等も楽しむ。雲、風が無く、日光方面は白根が近く丸沼スキー場もはっきり見える。皇海から子持山の連山も素晴らしい。日が翳る迄外で宴会を楽しみ、夕食はだまこ鍋。雪を融かしながらの調理は時間がかかり煮込みが甘かったが、まずまずで、残らず平らげてくれた。テントからの星が綺

麗で、北斗七星などが確認できた。

### 3月29日（日）晴れのち曇り

午後から天気が崩れる予報のため早目に片付ける方針で臨む。荷物は軽めにしたが、コメツガ、シラビソ等の樹林帯を抜けるまでは深雪で、私は皆よりも沈み苦戦。セビオス岳を超えて尾根に出て展望が広がる。中ノ岳の切り立った岩峰が圧巻。左側の切れ落ちた雪庇に注意しながら進む。急に雲が出て、不気味な迫力を湛えた断崖に気圧され、「私には登る力はない。下で待っている。」旨申出た。しかし、正子さん「あそこは私らでも登らない。巻き道があるから大丈夫！」と励まされた。そう言われて、明るい気分になる。斜面手前の尾根でワカンからアイゼンに履き替えた。雪が締まって歩き易い。日差しも戻って気分は爽快！

進路の右斜面は、雪の下が鎖場で角度はあるが、ピッケルの3点確保の教えを守ると楽に登れる。中ノ岳の山頂には夢の世界が広がっていた。上から見下ろす雪景色はテン場で見た銀世界とは段違いの輝きを以って広がる。これぞ雪山！以前、未丈ヶ岳でも素晴らしい雪景色を体験したが、ここの方が、高さがあり、有名な山に近い分、優る気がする。何とも贅沢な気分。来て良かった！

中ノ岳から沖武尊までは小さなアップダウンがあり、夏場は水場や三ツ池等の池塘やお花畑が楽しめる辺りであるが、今は真っ白で、結構、距離がある。

「9時山頂」のほぼ目標通りに沖武尊に着き、誰も居ない山頂風景を楽しんだ。

下山は、深雪も気にならず、どんどん降りられ、順調そのものであった。テン場には11時前に到着、荷物をまとめてスキー場へと急いだ。登りで正子さんが付けた赤布を回収しながら戻ったが、尾根の中心を見事に捉えたルート取りであった。お陰で雨にも遭わずに、無事に戻ることが出来た。なおスキー場では下りのリフトに乗ることが出来、楽ができた。

沼田の「望郷の湯」に浸かり、今来た武尊の雄姿を振り返った。帰りの高速道は自然渋滞はあったものの、6時半頃西武線の駅まで送って頂いた。

### 【最後に】

中ノ岳は正面の絶壁を登るものと勘違いし、目白を代表する3人に同行を願ったことを後悔する場面もあったが、結果としては、待望の山上の銀世界を堪能出来、3人の仲間に感謝したい。また反省や教えられることも多かった。

まず久しぶりの雪山テント泊で荷物が重かったこともあるが、日頃の不摂生が祟り、体重過多で、バテて遅れて迷惑を掛けた。更に3点確保のピッケルワークも自己流を矯正して頂き感謝している。加えて支度の迅速さ、リーダーの指示の明確さ等、当会の一流に触れ、日頃の甘さを再認識した。食事係としてゴミを持ち帰ったが、非常に量が少ないことも感心した。やはり厳しい山行を繰り返した中で身につけられた「山屋」が成せる技というべきか。自らの山行の甘さを再認識し、厳しさの持つ爽やかさを教えられた山行であった。（了）